

# Lカルニチン治療の血液透析患者の 腎性貧血への効果

(医社)スマイル 広島ベイクリニック<sup>1)</sup>、(医社)スマイル クレア焼山クリニック<sup>2)</sup>

(医社)スマイル 博愛クリニック<sup>3)</sup>、(一社)広島腎臓機構<sup>4)</sup>

広島大学病院腎臓内科<sup>5)</sup>

○平林 晃(ひらばやし あきら)<sup>1)</sup>、桐林 慶<sup>2)</sup>、大谷真帆子<sup>3)</sup>、山田有美<sup>3)</sup>

進藤稔弘<sup>3)</sup>、高杉啓一郎<sup>3)</sup>、頼岡徳在<sup>3),4)</sup>、正木崇生<sup>5)</sup>



## **【目的】**

血液透析患者の腎性貧血に対するLカルニチンの効果について検討する。

## **【対象および方法】**

当院外来血液透析患者で心不全と下肢痙攣に対しLカルニチン治療を行い12か月以上経過観察した9名に、治療前、治療後6か月、12か月のHb,ESA投与量(ダルベポエチン換算),ERI,フェリチン,TSATにつき後方視的に検討した。

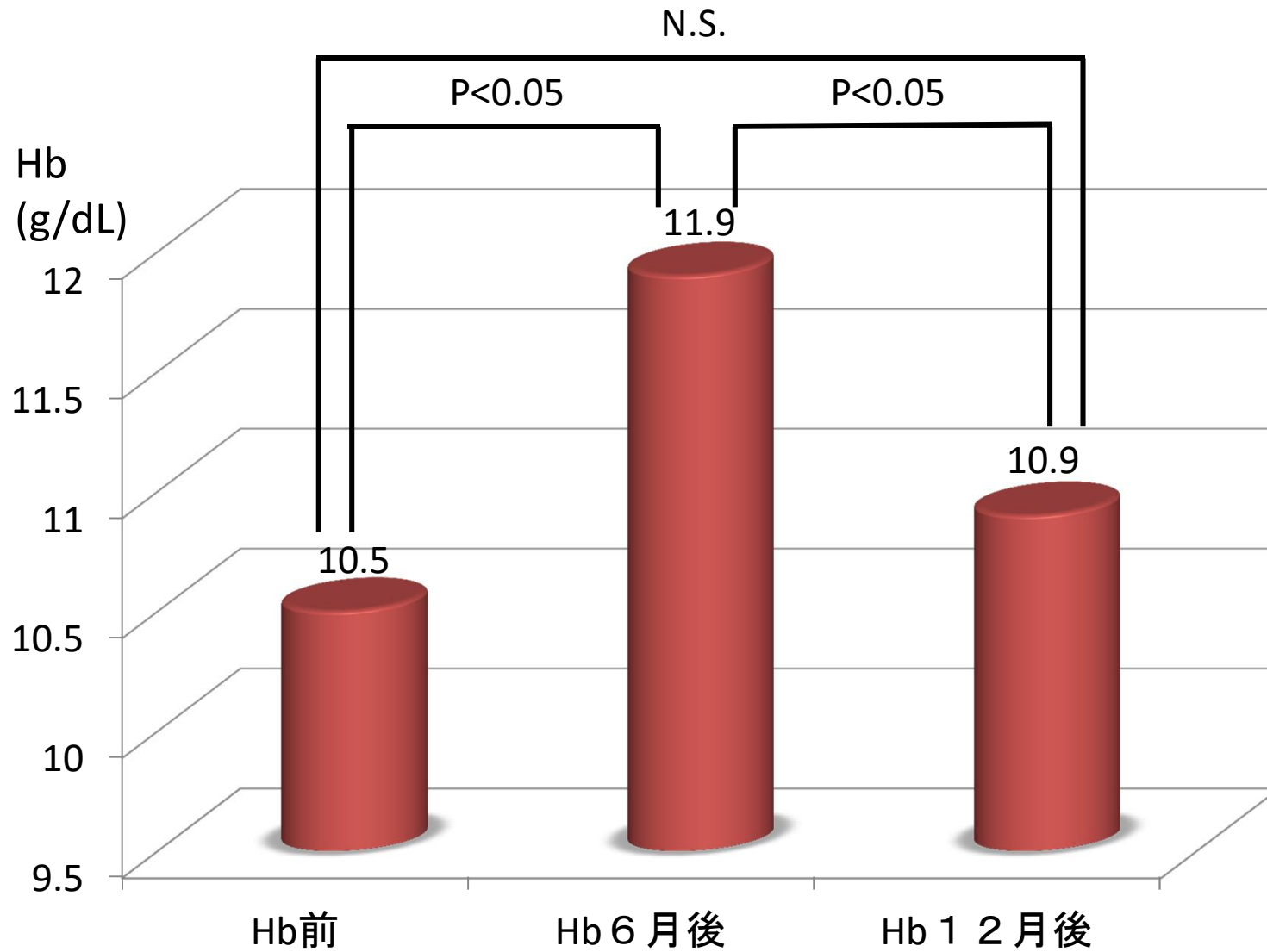


# 治療症例プロフィール

	年齢	性別	原疾患	透析歴	Lカルニチン使用目的	遊離カルニチン濃度 (36-74 $\mu$ mol/L)
症例1	59歳	女性	糖尿病	16M	心不全	23.1 ↓
症例2	69歳	男性	慢性腎炎	19M	心不全	22.7 ↓
症例3	82歳	女性	腎硬化症	139M	心不全	35.7 ↓
症例4	72歳	男性	慢性腎炎	162M	心不全	18.9 ↓
症例5	62歳	男性	糖尿病	6M	心不全	20.9 ↓
症例6	70歳	女性	慢性腎炎	173M	心不全	15.5 ↓
症例7	60歳	女性	腎硬化症	8M	心不全	21.4 ↓
症例8	72歳	男性	腎硬化症	12M	心不全	24.9 ↓
症例9	68歳	男性	糖尿病	7M	下肢痙攣	25.8 ↓

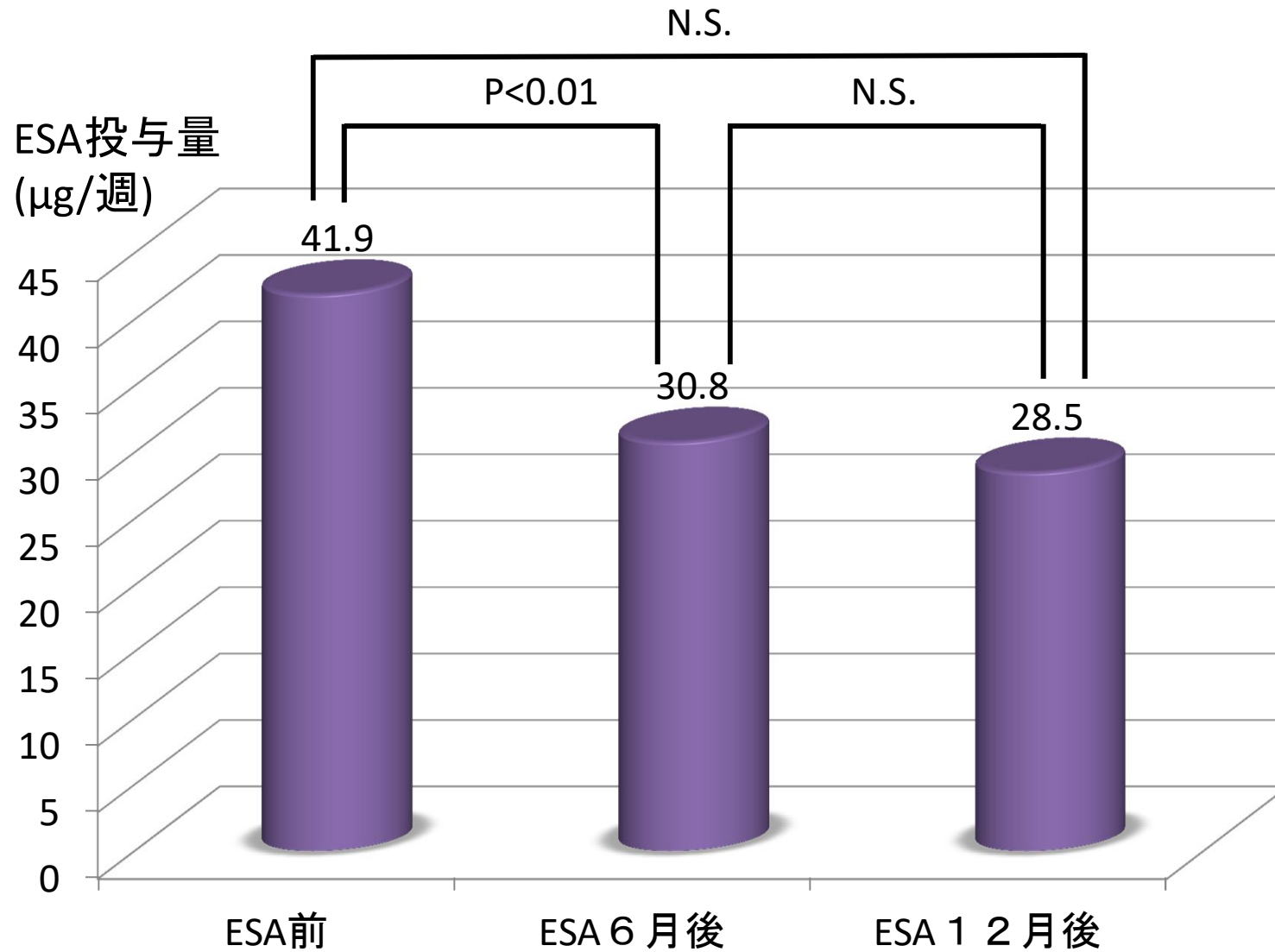


# Hb



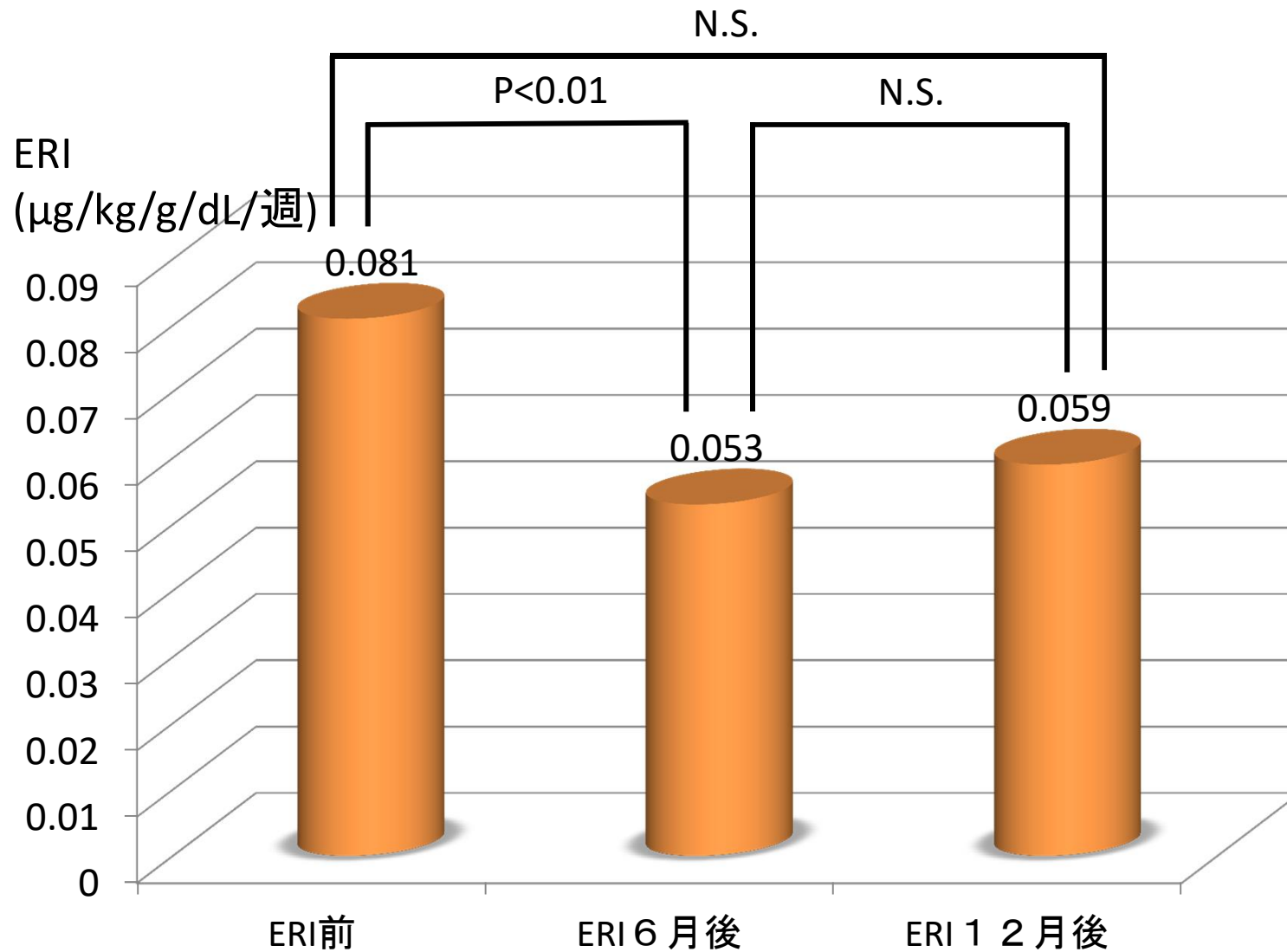


# ESA投与量



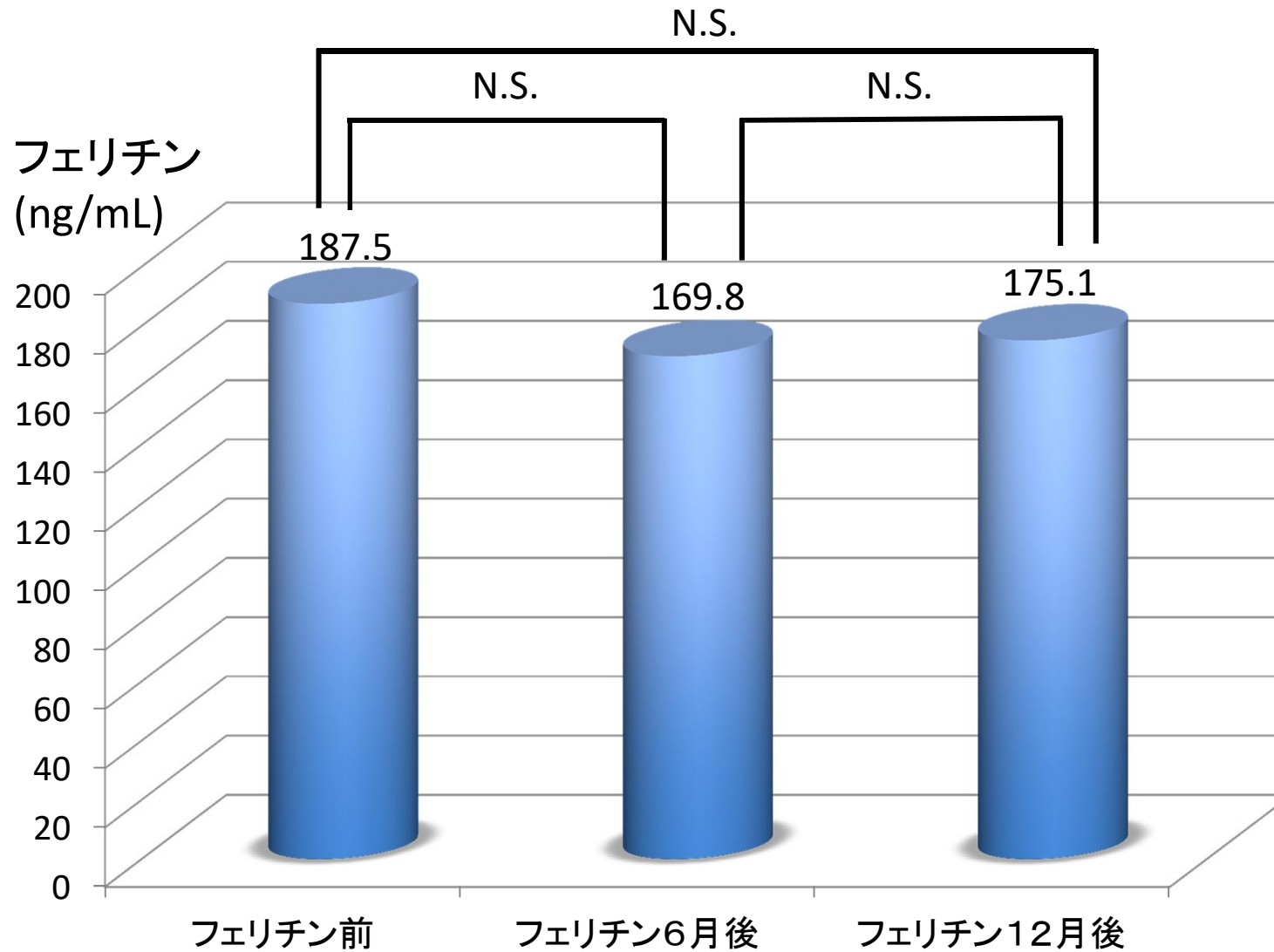


# ERI



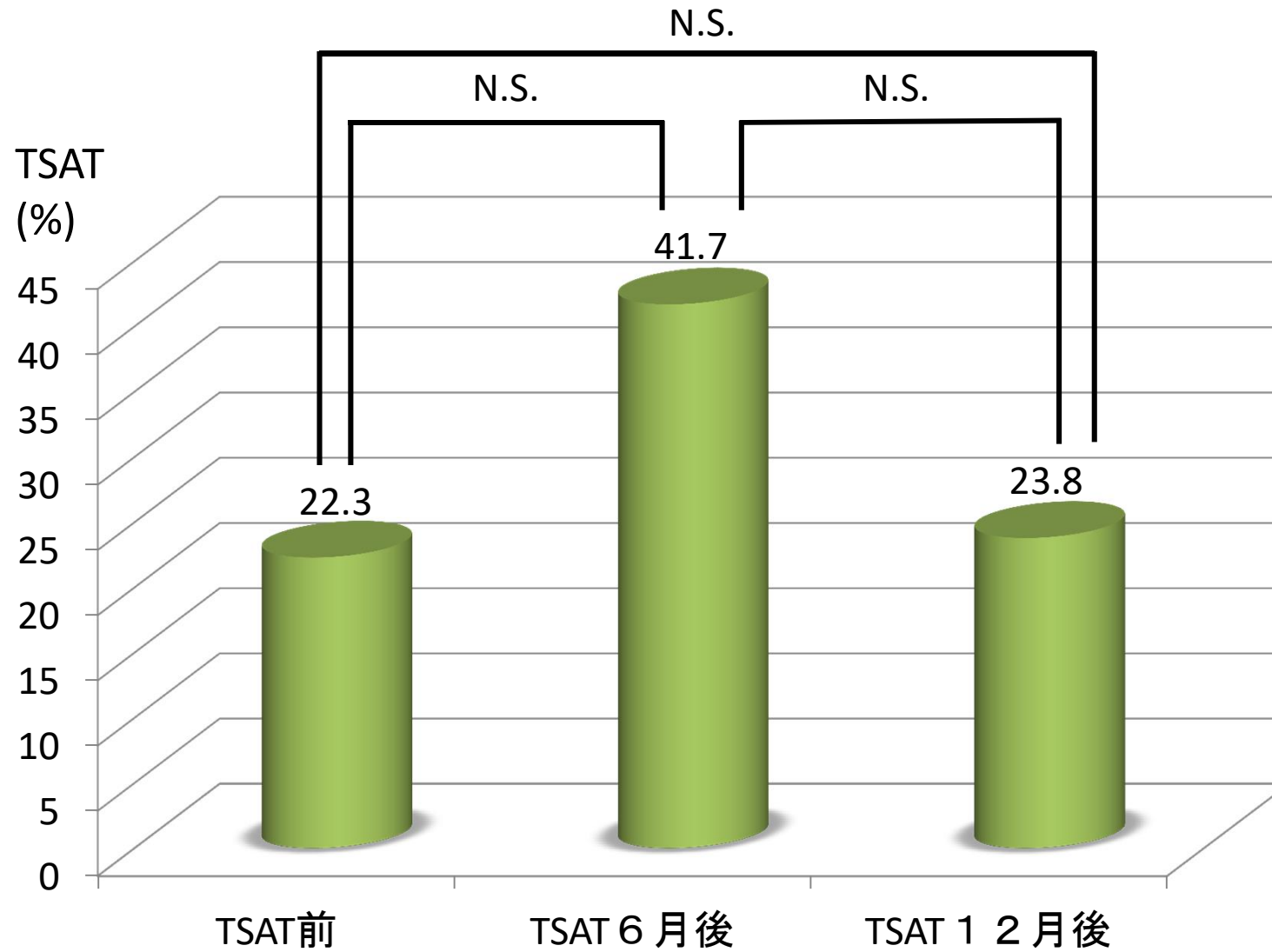


# フェリチン





# TSAT







# Lカルニチンの投与方法

透析導入後数年を経過して以下に当てはまる患者

- ①腎性貧血, エリスロポエチン使用例  
(副甲状腺機能亢進症, CRP高値, AI中毒,  
巨赤芽球性貧血を除外)
- ②透析時筋痙攣, 血圧低下
- ③心収縮力低下・心拡大
- ④筋力低下



## 結 語

- Lカルニチン治療を行った9名の血液透析患者の腎性貧血への効果につき後方視的に検討した.
- Hb は治療前10.5g/dLより治療後6か月11.9g/dLに増加, ESA投与量は治療前41.9  $\mu$ g/週より治療後6か月30.8  $\mu$ g/週に減少, ERIは治療前0.081  $\mu$ g/kg/dL/週より治療後6か月0.053  $\mu$ g/kg/dL/週に低下した.

以上より

Lカルニチン治療により腎性貧血に対するESA投与量の減量とESA抵抗性の改善が認められたと考える.



# 第26回中国腎不全研究会 COI開示

筆頭発表者: 平林 晃

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係に  
ある企業などはありません。